

## 小学校・道徳の内容項目の解説

# 思いやり・親切

### ●小学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
低学年	(2) 幼い人や高齢者など身近にいる人に温かい心で接し、親切にする。	思いやり・親切
中学年	(2) 相手のことを思いやり、進んで親切にする。	思いやり・親切
高学年	(2) だれに対しても思いやりの心を持ち、相手の立場に立って親切にする。	思いやり・親切

### ●解説

関連の説明	他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心を持ち実践のできる児童を育てようとする内容項目である。主に、第3・4学年の2の(2)及び第5・6学年の2の(2)と深くかかわっている。
全体的な理解	よい人間関係を築くには、相手に対する思いやりが不可欠である。思いやりとは、相手の立場を推し量り、自分の思いを相手に向けることである。そして、それは、具体的には温かく見守り、接することや、相手の立場に立った励ましや援助などを含む親切な行為などとして表れることが期待される。特に学校においては、多様な人との直接的なかかわり合いの機会を多くし、人間愛を根底とした思いやりや親切な行為の意義を実感できる機会をつくっていくことが重要である。
低学年	この段階においては、身近な人に広く目を向け、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるよう指導する必要がある。特に、身近にいる幼い人や高齢者等との触れ合いの中で、相手のことを考え、優しく接し、具体的に親切な行為ができるようにすることが求められる。
中学年	この段階においては、相手の気持ちをより深く理解できるようになるため、温かい心とともに、相手に対する思いやりの心を育てることが一層重要になる。相手の現在の状況、困っていること、大変な思いをしていることなどを想像することによって相手のことを考え、親切な行為を自ら進んで行うことができるように指導していくことが大切である。
高学年	この段階においては、特に相手の立場に立つことを強調する必要がある。どのように接し、対処することが相手のためになるのかをよく考えた言動が求められる。また、人間関係の深さの違いや意見の相違などを乗り越え、思いやりの心とそれが伴った親切な行為を、児童が接するすべての人に広げていく指導も大切である。そのためには、児童が多様な他者と触れ合い、助け合って何かをするような機会を増やすとともに、それらの体験を生かし、思いやりの心をもつことの大切さについて深く考えられるように工夫する必要がある。

文部科学省「小学校学習指導要領解説・道徳編」（平成20年8月）より

### ■参考：中学校学習指導要領（平成20年3月）

2 主として他の人とのかかわりに関すること		〔一般的な呼称例〕
(2)	温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもつ。	人間愛・思いやり